

令和7年度 桃谷中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	113	52	41	7.1	14.5
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
	理科
学校	476
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	110	63.8	50.7	53.1	45.0	50.6	6.5	6.3	12.0	10.5	8.0
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4

※ 3年生の理科はB問題を選択

令和7年度 桃谷中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○全国学力・学習状況調査結果

【成果と課題】

<国語>

平均正答率は52%で、大阪市平均と同じであった。その中でも、「書くこと」と「読むこと」の2つの領域で大阪市平均を上回っている。

<数学>

平均正答率は41%で、大阪市平均よりも5ポイント下回った。無回答率も3.3ポイント高く、領域別では特に「関数」において正答率が9.4ポイント低かった。

<理科>

平均IRTスコアは476で、大阪市平均と比較して13ポイント下回った。IRTバンドの割合も全体的に下がっている。

【今後に向けて】

<国語>

朝習でのデジタル新聞を活用した取り組みや、新聞記事の書き写し等の取り組みの成果が出ており、書くこと、読むことの力は伸びている。今後はさらに読解力・文章構成力を伸ばす取り組みを進めたい。

<数学>

角度を求めることが確率を求めることができているが、問い合わせに対する説明や証明することができていない。言語活動を通して基礎的な知識・技能の向上はもちろん、理解すること・表現することができるようになること、粘り強く問題に取り組む姿勢を育てていきたい。

<理科>

どの領域でも基礎的な知識・技能の定着が低いので、まずは、基礎的な内容の復習と習熟度の向上を目指す。思考・判断・表現領域は、実験結果を適切にこだえるなど、授業で取り組んでいる成果が見られる。今後も、実験等を通じて表現力・考察力に磨きをかけてていきたい。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

【成果】

<国語>

平均点は大阪府(64.2点)と比較して0.4点下回り63.8点となった。学習指導要領の内容における結果は「我が国の言語文化に関する事項」と「読むこと」で大阪府平均を上回ったが、それ以外の領域ではわずかに下回る結果であった。評価の観点では、「思考・判断・表現」で大阪府を0.2点上回った。また、無回答率は大阪府(6.8%)に対して6.5%と下回ることができた。

<社会>

平均点は大阪府(51.2点)と比較して0.5点下回り50.7点となった。学習指導要領の領域の地理的分野、評価の観点の「思考・判断・表現」、問題形式の選択式の項目において大阪府の平均点を上回ることができた。また、無回答率は大阪府(6.5%)に対して6.3%と下回ることができた。

<数学>

平均点は大阪府(53.9点)と比較して53.1点となり、0.8点下回った。対府比は0.985となり1年時の0.932、2年時の0.942と比較して大きく向上した。また、1学期に実施した全国学力・学習状況調査結果において、全国平均より5ポイント低かったことを鑑みると、徐々に学力が向上していることが認められる。学習指導要領の領域の「関数」、評価の観点の「思考・判断・表現」の項目において大阪府の平均点を上回ることができた。また、無回答率は大阪府(12.1%)に対して12.0%と下回ることができた。

<理科>

平均点は大阪府(46.0点)と比較して1点下回り、45.0点であった。学習指導要領の領域における数値は「生命」で上回ったものの、他はいずれも0.6点下回った。評価の観点の領域もどちらも大阪府平均を下回った。問題形式別では「選択式」で0.4点上回ったが、他の2つは下回り特に「短答式」で1.2点下回った。また、無回答率は大阪府(11.0%)に対して10.5%と下回ることができた。

<英語>

平均点は大阪府(53.2点)と比較して50.6点となり2.6点下回った。対府比は、1年0.944、2年0.957、3年0.951となり、3年間で見ればわずかに上昇している。学習指導要領の領域の「読むこと」で0.2点、問題形式別の「短答式」で0.1点大阪府平均を上回ることができた。また、無回答率は大阪府(7.4%)に対して8.0%と下回ることができなかつた。

【課題】

<国語>

漢字の読み書きにおいて、ほとんどの問題で正答率がやや低い傾向にある。また、対話文の空欄に入る内容を、前後の文脈に合わせて数値を用いて説明することが苦手な生徒が多い。話し言葉と書き言葉の使い分けが十分にできていない傾向も見られる。

<社会>

知識・技能が平均より0.9%下回っている点、短答式の平均点が大阪府に比べ0.8%低い点から、「学習内容を正しく理解して、知識を定着できていないこと」が課題である。

<数学>

「数と式」「データの活用」の2単元で府市の平均を下回っている。「数と式」に関しては計算力が少し低い傾向があるため、基本の計算力を身に着けさせる必要がある。「データの活用」の関しては、図や表の読み取りを普段から定着させていく必要がある。

<理科>

知識・技能が平均より0.8点下回っていることから、基本的な知識が身についていないことが読み取れる。「生命」の分野以外で平均を下回っているため、分野別での対応も必要である。

<英語>

「読むこと」の領域が府平均よりも0.2ポイント上回ったのは、帯活動による「読みトレ100」の取り組みが影響したと考えられる。引き続き取り組みたい。反対に「書くこと」のポイントが府平均より2.5低く、授業での取り組みを増加する必要がある。

【今後に向けて】

<国語>

漢字学習の習慣をより強化するとともに、授業で教科書を音読する機会を設けたり、漢字の仕組みや構成について理解を深めたりする必要である。初見の熟語でも漢字の意味や前後の文脈から読み方や意味を推測できる力をつけさせることが課題である。

<社会>

知識定着のために歴史・地理の基本的な語句の復習を行うこと、小テストなどによる確認の時間を設けていく。また、時事問題に触れる機会を増やし、学習内容を身近に捉える取り組みをしていく必要がある。

<数学>

前項目を達成するためには、常日頃から学習に対する方法を指導する必要がある。効率度外視で勉強量に重きを置いている生徒が数十名おり、勉強量と成績が比例しない。基礎的な数学力を定着するために、繰り返し演習を行ったり、粘り強く数学に取り組む態度を養っていく必要がある。

<理科>

知識の定着を図るために、問題演習の時間を設ける必要がある。実験を多く取り入れているがそのアウトプットを行うような問題演習の時間を取り、知識の定着を図っていく必要がある。

<英語>

記述式問題の配点が30点満点であるが、10.0ポイントの結果がでた。普段、発表の原稿を書かせたり、自分の意見を書かせたりする授業はおこなってきたが、教科書や補助教材の例文を参考に書かせることが多くいたため、自力で書くことが苦手な生徒が多い。今後は、問題を多く解かせ、基本の文法や語彙を用いて書くことに慣れさせていく必要がある。

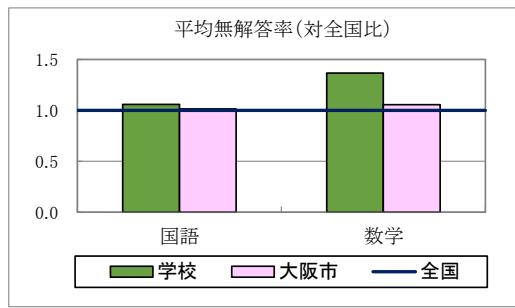
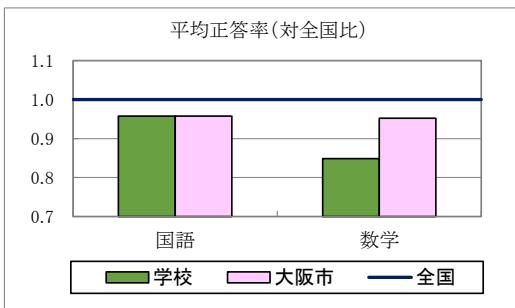
**令和7年度 桃谷中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—**

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【全 体】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	52	41
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

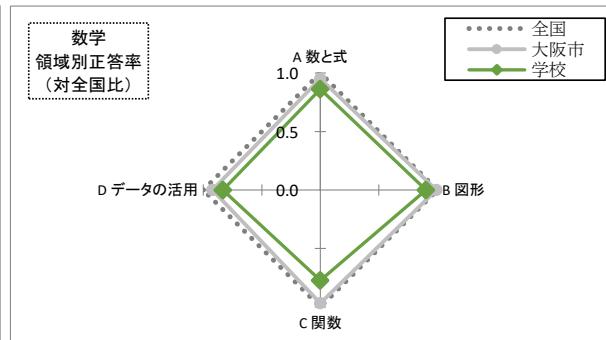
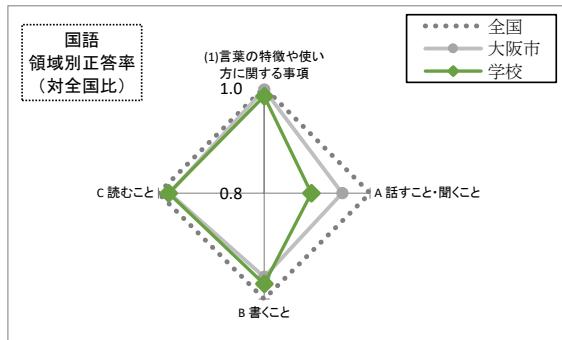
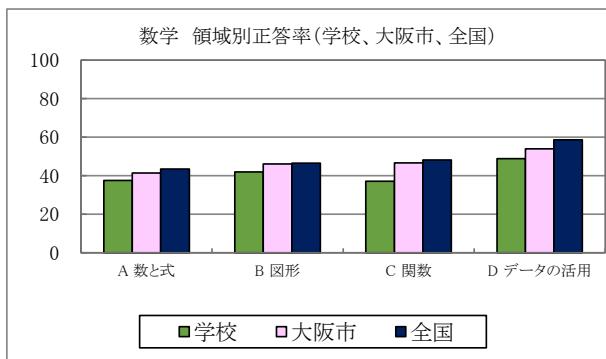
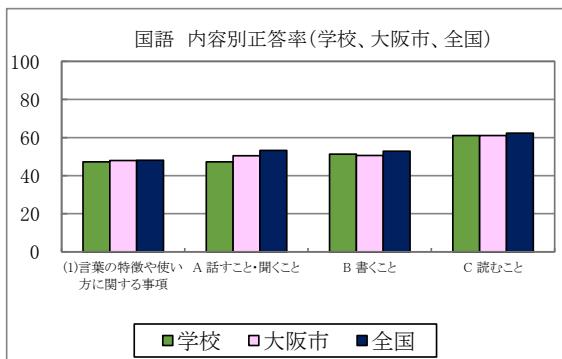
平均無解答率(%)		
国語	数学	全国
7.1	14.5	
6.8	11.2	
6.7	10.6	



【国 語】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	47.3	47.9	48.1
(2)情報の扱い方にに関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	47.3	50.4	53.2
B 書くこと	5	51.3	50.6	52.8
C 読むこと	3	61.1	61.0	62.3

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	37.5	41.4	43.5
B 図形	4	42.0	46.1	46.5
C 関数	3	37.2	46.6	48.2
D データの活用	3	48.8	54.0	58.6

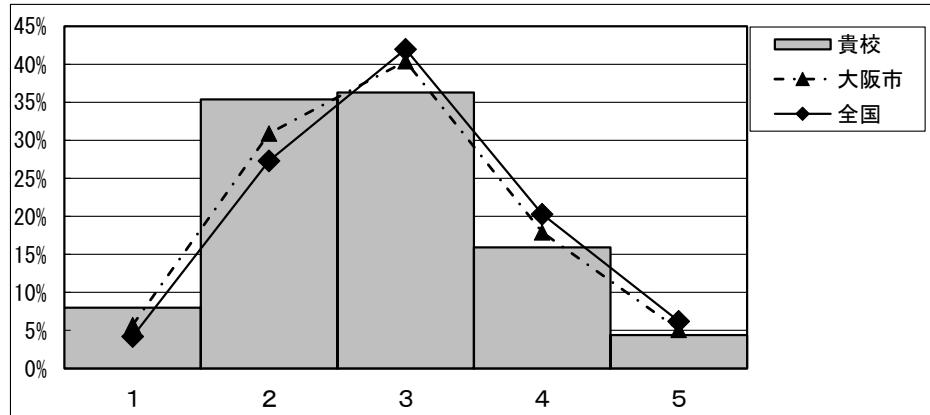
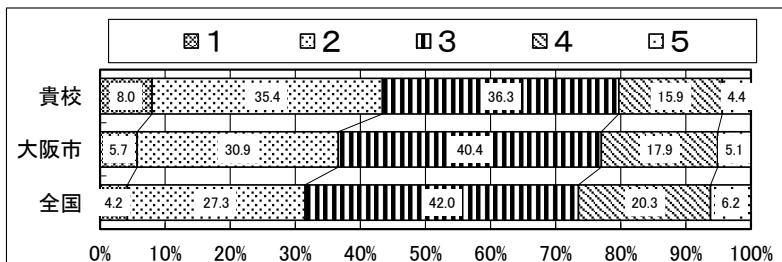


令和7年度 桃谷中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	476
大阪市	489
全国	503



令和7年度 桃谷中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

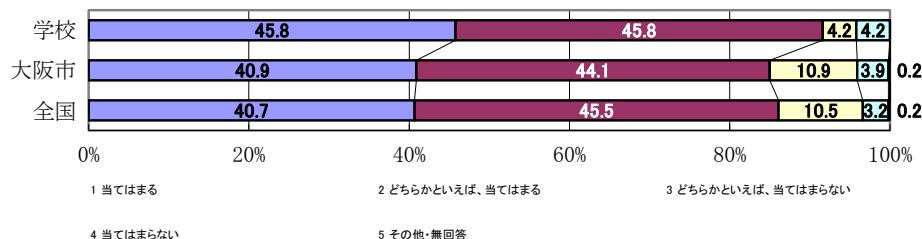
生徒質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

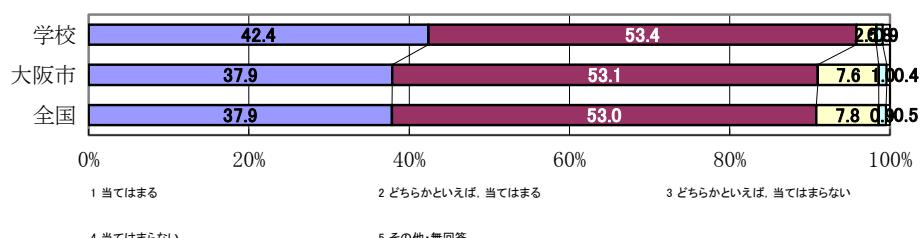
5

自分には、よいところがあると思いますか



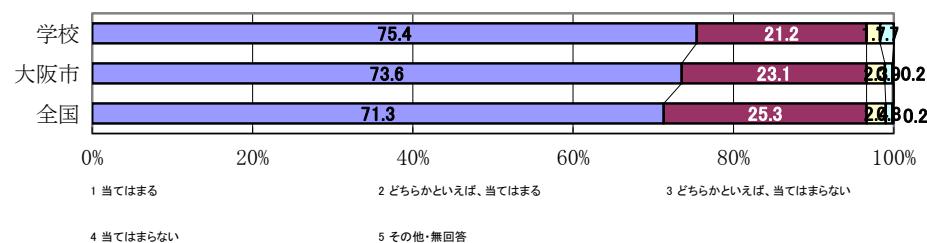
8

人が困っているときは、進んで助けていますか



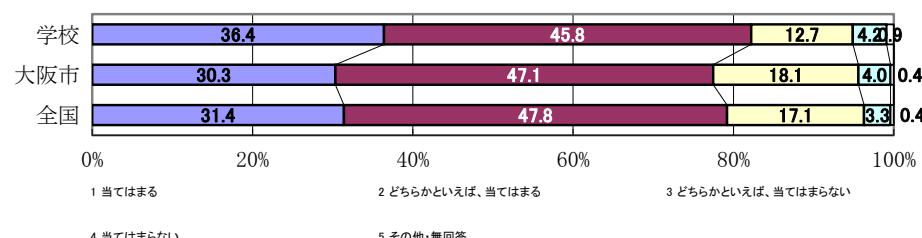
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



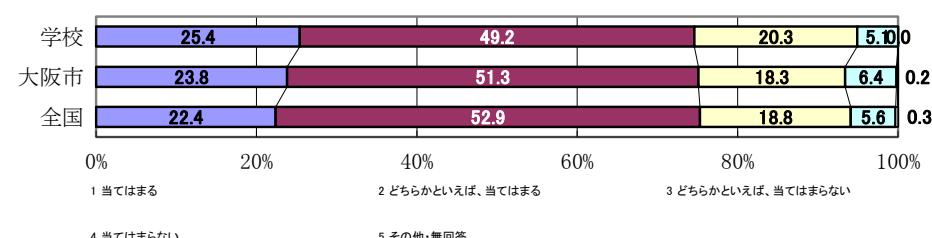
13

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



27

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



令和7年度 桃谷中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

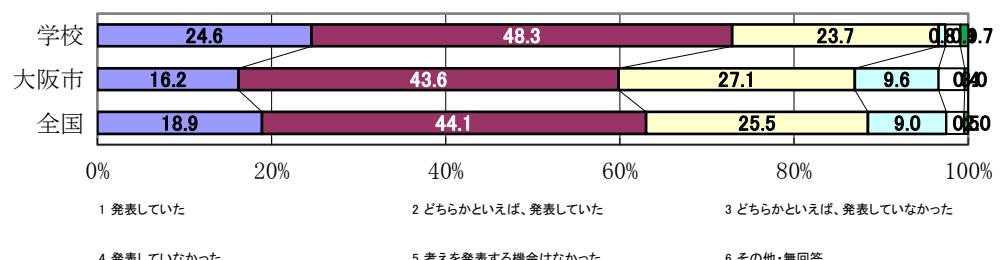
生徒質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

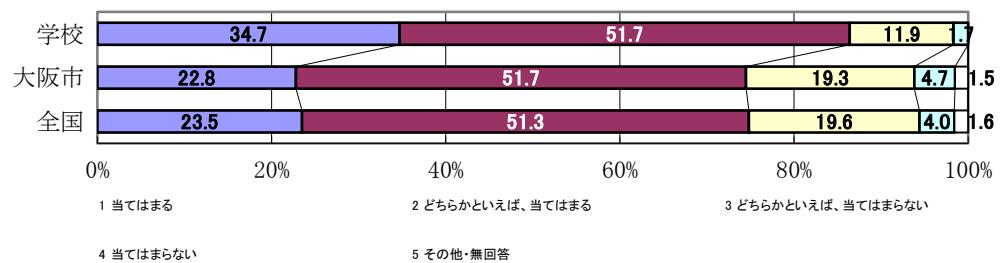
31

1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



37

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか



令和7年度 桃谷中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

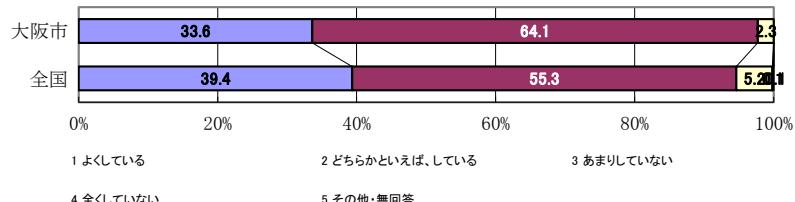
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

17

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

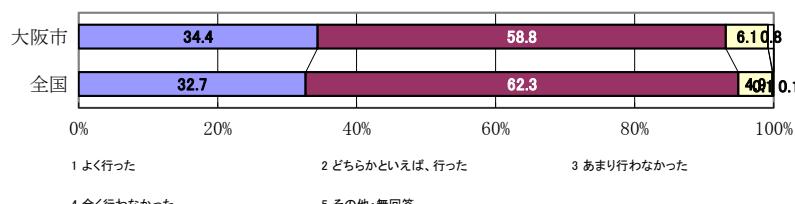
学校 「よくしている」を選択



31

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

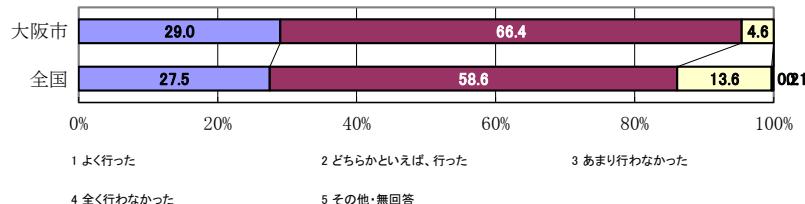
学校 「よく行った」を選択



32

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

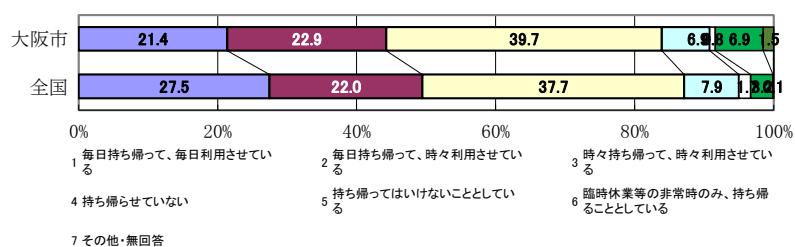
学校 「よく行った」を選択



66

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

学校 「毎日持ち帰って、時々利用させている」を選択



76

地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行いましたか

学校 「よく行った」を選択

